



2017-18年度
国際ロータリー会長
イアン・ライズリー

Weekly Report Niigata



国際ロータリー
2017-18年度テーマ



2017～18年度
新潟ロータリークラブ会長
徳永 昭輝

新潟 RC 8月第 1 例会 (2017.8.1) No.3193

- (1) 「君が代」 斉唱
ロータリーソング「奉仕の理想」 斉唱
- (2) 徳永 昭輝会長挨拶

7月25日、第4例会は友好クラブの前橋RCとの合同納涼例会でした。前橋RCの小林会長から御礼状が届いています。友好の輪を広げることができ、皆様に感謝申し上げます。特に、玉委員長はじめ親睦委員の皆様には、前橋RCとの楽しい合同納涼会を企画・進行して頂き心から感謝申し上げます。

今日から会員の皆様に3分間スピーチをお願いすることになっていますが、全会員がお互いに語り合い、知り合い、親睦を深めることを目的にしています。新潟ロータリーの会員でよかったとお互いに喜び合う機会となることを期待しています。

さて、これからの会長の挨拶では「健康と命」に関連した話をしていきたいと思ひます。今日は、新幹線で目にした1節を紹介し命の大切さについて考えてみたいと思ひます。

「植物学者を魅了した奥日光」という記事の中に、幕末、西洋式の植物分類法が伝えられて以来、「雄しべ」「雌しべ」「花粉」など、花の部位の和名を考案した近代植物学の祖と言われている伊藤圭介の他に多くの植物学者が奥日光を訪れた日光ゆかりの植物学者の名前を挙げられていました。その中に、日本の植物学の父と言われる牧野富太郎の「雑草という名の植物はない」という名言と「不殺生、不伐木、不開拓」を提唱し、日光の自然は世界に誇れるものだと「決して破壊してはならぬ」と論じた白井光太郎の一説がありました。何となくこの一文が忘れられないでいたのですが、7月27日、朝日新聞の「忘れない19人の人生」「やまゆり園事件1年」;相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」の入所者19人が殺害された事件の記事が目にとまりました。事件の背景について、NPO法人「日本障害者協議会」の藤井克徳代表は「世界的に強まっている効率主義や排外主義は、“命に優劣がある”とする優生思想と地続きだ」と指摘し、政策のレベルを上げて障害者の環境を改善し、健常者が障害者とじかに触れ合っって無知や無関心を解消していくべきだと訴えています。写真は、「津久井やまゆり園」前で花を手向けている和田拓也さん(24歳)です。

自身も脳性まひを患っており、「僕も同じ立場だったら殺されていたと思う。「つらかったね」という気持ちと、みなさんの分も生きていく、という気持ちで手を合わせた」と話したという記事でした。

日本では産婦人科医師に医師免許とは別に「母体保護法」によって「母体保護指定医師」というライセンスを与えられています。戦前には、「遺伝疾患」を持っている患者に対して、劣悪な遺伝子の除去を目的に、優生手術(不妊手術)を義務付けた国民保護法(1940-1947)がありました。しかし、第2次大戦中の立法であったことや、出産増加を目的としていた法律であったために1948年に優生保護法が制定されました。優性上の見地から不良な子孫の出産を防止するとともに、母体の生命と健康を保護する法律でしたが、遺伝疾患や精神障害を理由に不妊、中絶手術が容認され、その名の通り「優生学」という学問がもとになって制定されていたため、みなさんもご存じと思いますが、この法律の下ハンセン病患者に対しては「子供を設けることを許さず、妊娠した場合には中絶が強要され、子供が生まれてから施設に入所した人には新生児を処分することが求められていました。このような優生学は、20世紀初頭にははるく支持されていましたが、「ナチス政権の人権政策に使われたのを境に一気に支持を失っていきました。「優生保護法」は優生思想に基づく部分が障害者への差別になるとの強い批判から、1948年に「母体保護法」に改正・改題されました。「優生思想」や本人の同意によらない断種の規定を削除し、純粋な「母体保護法」として改正されましたが、中絶に経済的理由を認めた条文や配偶者の同意が求められている点などを疑問視する意見もあります。また、胎児の異常が出生前に診断されても、妊娠中絶の適用とされていないこともあり、このような場合には妊娠中絶を認める「胎児条項」を法律に加えようという意見もあります。しかし、障害を持った人間の存在を否定することにもなり、全ての胎児を選別する危険性も指摘されており、母体保護法も検討しなければならぬ多くの問題を抱えているのが現状です。

やまゆり園事件は「差別社会の現実」を背景に起きた事件であり「障害者とともに生きる社会」の実現に努力しなければならないとの思いに駆られ、牧野富太郎が残した名言「雑草という名の植物はない」を思いながら、母体保護指定医師として自覚を持ってその任を全うしたいと考えています。

(3) 3分間スピーチ

(株)ミタカ取締役副社長 秋山博一君

(株)電通東日本新潟支社支社長 安野克彦君

(株)新潟三越伊勢丹代表取締役社長 浅田龍一君

(4) ビジターの紹介

前田 正実君、原 寛君(新津RC)

(5) 米山奨学生奨学金贈呈・挨拶
ソド チャンドマニチメグさん

(6) 100%出席バッチの贈呈

竹内 一樹君 1年 堀 盛富君 3年
本間 剛三君 4年 山田 眞君 5年
小田 等君 7年 内山 清君 27年
小林 悟君 39年 福地 利明君 43年

(7) 誕生日お祝い贈呈(6名)

(8) 結婚記念日お祝いの紹介(2名)

(9) 委員会報告

・矢野達史君へ地区広報・公共イメージ向上委員会
委員委嘱状伝達

(10) 各種ご寄付の発表

米山奨学会寄付発表(小林 敬直委員長)

白勢 仁士君 徳山 啓聖君
吉田 和弘君

青少年育成基金寄付発表(白勢 仁士委員長)

中山 哲克君 小林 悟君

(11) ニコニコボックス紹介(八島 進副委員長)

・新津RC 原君、前田君 本日メイキャップお世話になります。

・山本 健一君 都市対抗野球で当社NTT東日本が36年
振りの優勝をしました。まさか、まさかの出来事にニコニコ
します。また、今週金曜日の新潟まつりではNTTドコモと
連合軍の550名で祭りを盛り上げたいと思います。

(12) 幹事報告(織戸 潔幹事)

会員名簿に同好会(ゴルフ・野球・料理研究会)メンバーの
情報を記載します。同好会の情報を共有し、当クラブ及び
市内6クラブとの会員の親睦・活性化の為にツールとして
活用します。7/11 理事会持回り審議にて承認されました。

(13) 8月 1日例会の出席率 81.40%

会員数 88名(出席免除会員 8名)

出席者 70名(出席免除会員4名を含む)

(2週間前メーク後 95.18%)

7月4日 理事会報告 出席者14名

1.九州北部集中豪雨義援金のお願い

別紙新保ガバナー事務所よりのお願いを基に説明 趣
旨に同意し承認された。早速本日例会より義援金をお願
いする。

2.10月24日職場訪問について

別紙視察スケジュール(案)を基に説明、承認された。
視察先: 柏崎刈羽原子力発電所

3. 入会被推薦者について=承認

・農林中央金庫 新潟営業所 営業所長 津久井勝之君
(推薦者 大澤 強君、町田 智君)

・日本銀行新潟支店支店長 武田 直己君
(推薦者 小山 楯夫君、若杉 武君)

・(株)BSNアイネット 代表取締役社長 梅津 雅之君
(推薦者 敦井 栄一君、竹石 松次君)

・新潟信用金庫 理事長 小松 茂樹君
(推薦者 小山 楯夫君、若杉 武君)

3. 小山 楯夫君より出席規定適用免除申請の取り消し
のお願い=再度理事会にて図る。

4. 秋田ロータリークラブ創立65周年記念式典・祝賀
会の件=式典・祝賀会は欠席とするが祝辞を贈ることす
る。承認された。

5. ミャンマー医療支援に関する情報提供

超音波医療機器を支援することについて現状を説明(徳
永会長) JICAを通すことや、新潟大学を経由する等
の意見もあるが、引き続きミャンマーを良く知っている
人とのミーティングが必要。課題はメンテナンス、全体
の数字(輸送費・保守費)を出して検討したらどうか。
費用をどこから出すかも検討が必要。徳永年度から次年
度若槻会長、次々年度会長への継続も本件のポイントと
なる。

【継続審議とする】

6.8月のプログラム

8月 1日 第一例会につき卓話なし

8月 8日 会員スピーチ「新潟の不動産市況とこれか
らの課題」

(株)千代田開発 代表取締役 佐藤邦栄君

8月15日 規定休会

8月22日 未定

8月29日 未定

8月のプログラム予定について織戸幹事より説明、現時
点のプログラムを確認した。

7. ロータリー財団アンケート(案)改訂版について
高橋秀樹理事より別紙アンケート(案)改訂版について
説明。詳細、進め方は財団委員会となるが、アンケート
を実施することが了承された。

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>